

[北方林業研究室]C. その他 : 1. ジフイポット育苗試験

青木, 尊重
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

宮崎, 安貞
九州大学農学部附属演習林 : 助手

今田, 盛生
九州大学農学部附属演習林 : 助手

中井, 武司

<https://doi.org/10.15017/1456277>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和41年度, pp.134-134, 1967-07-10. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



第4表から、本演習林のカラマツ造林地は全道および帯広地方のカラマツ造林地の、おおむねⅡ等地からⅤ等地に位置しているとみなされる。しかし、本演習林のカラマツ調査地は9年生であるから、あくまでも推定にすぎず、10年生になる昭和42年度に、本演習林のカラマツ造林地の地位をさらに再検討する予定である。

また、被害状況については、第1表からわかるように本年度の総枯損本数は6本で、これらは林木相互間の競争による被圧や、風雪害等による枯損が主であると思われる。

今後も調査測定を継続し、将来は実験計画に基づく分散分析を行ない、その結果によつて本演習林のカラマツ造林地の選定資料にするとともに、生長過程の実態を明らかにして合理的な保育方法の究明に資したい。なおこの調査結果は、カラマツ収穫表作成時のデーターとなるものである。

2. カラマツ間伐試験

本演に適合するカラマツ間伐法をみいだすため、昨年度は本演8、9林班の16年生カラマツ林に間伐試験地を設定したが、本年度も12月に本演21林班の13年生カラマツ林に試験地を設定した。

その詳細については、本報告書の論文編に発表したのでここでは省略する。

C. そ の 他

1. ジフイボット育苗試験

最近水ゴケ泥炭と特殊パルプで作られたジフイボットによつて、林業用苗木が育成され、育林技術の分野で相当の成果が認められつつある。そこで主として山引苗の有効的活用手段として、ジフイボットの採用を検討してみることにした。

試験結果については、本報告書の論文編に発表したのでここでは省略する。

2. 下木奥植造林試験

本試験は、広葉樹林ないしは広葉樹二次林の合理的な経営法として、広葉樹林を弱度に疎開し、耐陰性の強い針葉樹たとえばエゾマツ・トドマツを植栽する方法を検討するとともに、また一万エゾマツ、トドマツの合理的な植栽法ひいてはエゾマツ、トドマツ林の合理的な造成法を研究す